

慶應言語学コロキウム

ヒトのことは、
「どのようにして」「いつ」起源したのか？
ミニマリスト・プログラムに拠る進化生成言語学のアプローチ

講師：池内 正幸 氏(津田塾大学学芸学部教授)

日時：2016年2月28日(日)14:00-18:30

会場：慶應義塾大学三田キャンパス北館3階大会議室

参加費無料 申込不要

本講演では、ミニマリスト・プログラムに拠る進化生成言語学によって、ヒトの言語が、「どのようにして」、「いつ」起源・発現したのかという問いそれぞれについて、仮説・シナリオを提案・説明する。

まず、「言語」の起源・進化という時その「言語」とは何か/何が含まれるのかについて確認する。何をもち「言語」とするかを定義せずにその「起源・進化」を検討することはできないはずであるが、これは言語学以外の領域をベースとする言語進化研究においてはしばしば見受けられるところである。本講演では、最近のMP理論で議論されている統語操作・特性等について復習・検討し、「言語」を、少なくとも(集合/対)併合が含まれるUGであるとする。

そして、「どのようにして」発現したかという問題を、表現型における、UGの「前駆体は何か」という問題として捉え、これまでの幾つかの提案や最近の進化論等関係する考え方に触れながら、特に(非)対称性・線状性に注目しつつ、可能な前駆体について考察し、新しい視点を模索する。次に、そのUGが「いつ」発現・創発したのかについて、考古学・古人類学・古地質学・遺伝学等々の最近・最新の知見を駆使しながら、「出アフリカ」との関係において考察し、「言語の早期発現仮説」のシナリオを提案・説明する。

最後に、言語の起源・進化研究の今後についての展望を述べる。

主催：慶應義塾大学言語文化研究所
協力：慶應義塾大学次世代研究プロジェクトB

<お問い合わせ先>

〒108-8345 港区三田 2-15-45 慶應義塾大学言語文化研究所

電話：03-5427-1595 (事務室直通) メール：genbu@icl.keio.ac.jp

<http://www.icl.keio.ac.jp>